

概要

- 山梨県では、県産野菜の主要品目**スイートコーン**の産地強化を目指して、**抑制作型の生産拡大**を進めている。
- 抑制裁培では、台風等の強風による倒伏などが懸念されることから、**安定的に高品質なスイートコーンを生産できる技術**が求められる。
- 試験研究成果の**倒伏軽減技術の現地実証**をとおして、抑制裁培の生産拡大が見込まれることとなった。

具体的な成果

1 現地実証による成果の確認と課題の明確化

- 地域普及センターと連携し、**高標高地及び平坦地に現地実証ほを設置**。
- スイートコーンの収量や品質が慣行と同等であることが確認できた。
- 現地実証ほをとおして、普及指導員に**技術の習得**を図ることができ、普及する上での**課題が共有**された。



2 JA営農指導員への情報提供と普及

- 実証ほの成果をJA営農指導員に情報提供。
- JAと地域普及センターで実証ほを設置し、生産者に技術の普及を図ることとなった。

3 抑制作型の生産拡大

- 雄穂切除による倒伏リスクの軽減により、安定生産が見込まれることから、抑制作型生産拡大の動き。
- 令和6年から**JAでの共選**が始まることとなった。



普及指導員の活動

- | | |
|--------|--|
| 令和2～3年 | <ul style="list-style-type: none">■ 総合農業技術センターが成果情報「スイートコーン栽培における雄穂切除による倒伏軽減技術」を発表。■ 普及に向けた課題の整理。 |
| 令和4～5年 | <ul style="list-style-type: none">■ 異なる地域、作型、品種での現地実証により、収量、品質への影響を確認。■ 作業の効率化を検討。■ 普及指導員と成果の共有とJA営農指導員への情報提供。 |
| 令和6年～ | <ul style="list-style-type: none">■ 県内各地域において、JAと地域普及センターで、現地実証。 |

普及指導員だからできたこと

- 地域の栽培状況に応じた現地実証を行うことにより、地域適応性が確認でき、普及が見込まれることとなった。
- JAとの連携により、試験研究成果の現地への円滑な普及が行われ、スイートコーンの生産拡大による産地強化が進められた。

活動主体	総合農業技術センター 農業革新支援スタッフ	執筆者	堀内浩明
タイトル	スイートコーン倒伏軽減技術の現地実証		

1 活動の背景

本県野菜の主要品目であるスイートコーンの生産拡大を図るため、これまでの総合農業技術センターの研究成果をもとに、生産安定技術や抑制裁培の普及に取り組んできました。

令和2年度には、成果情報「スイートコーン栽培における雄穂切除による倒伏軽減技術」が発表されました。情報の内容は、倒伏軽減のためには主茎の切除が有効で、切除は絹糸抽出1週間後以降に行い、雌穂上位に2葉以上残すことで、切除しない場合と同等の品質、収量が得られるというものです。

強風による倒伏は収量の減少や品質低下につながることから、技術の普及による生産安定が期待されますが、現地での導入を進めるためには、異なる品種や栽培時期での地域適応性や切除作業の効率化が必要であると考えられました。そこで、昨年度に引き続き地域普及センターと連携し現地での技術実証を行いました。

2 活動の経過

(1) 地域適応性の検討

切除することによる雌穂重と品質への影響を確認するため、北杜市長坂町に実証ほを設置しました。設置に当たっては、実証農家の選定や日程調整等、中北地域普及センターの協力を受ける中で、今年度は8月下旬収穫予定のゴールドラッシュ88を対象品種に行いました。

切除時期は昨年同様絹糸抽出10日～2週間後で、雌穂上位に概ね3葉残す位置としました。実際の栽培の中で切除作業を行う場合、一定の高さで切除することが想定されるため、切除前に草丈、葉数等の調査を行い、概ね3枚残しとなる草丈の平均を算出しました。

実証ほの概要

ほ場所在地	標高	品種	は種期	絹糸抽出期	雄穂切除日	収穫始め	草丈	切除した高さ
北杜市長坂町	約690m	ゴールドラッシュ88	6月20日	8月5日	8月18日	8月24日	181cm	130cm
(参考) R4実証ほ		ゴールドラッシュ90	6月14日	8月1日	8月10日	8月23日	209cm	160cm

※ R4実証ほ：北杜市長坂町、標高約710m

(2) 省力化の検討

切除作業の省力化、効率化を図るため、今年度も生け垣の刈り込みなどに利用される充電式の電動バリカン（ヘッジトリマー）を用いて、作業性や作業時間を確認しました。

(3) 現地検討会の開催

北杜市長坂町の実証ほにおいて、雄穂切除時と収穫時の2回、各地域普及センターの野菜担当者を対象に現地検討会を開催し、雌穂重や品質の調査と切除作業の作業性等について検討しました。



電動バリカンでの切除作業



収穫物の調査

3 活動の成果

収穫物調査の結果、ゴールドラッシュ88についても切除しない株と比べ、雌穂重はほぼ同等で、先端不稔の発生も差のないことが確認できました。

切除する高さは、雌穂の上位3葉残しで草丈130cmでした。昨年度の対象品種ゴールドラッシュ90は草丈160cmで切除したので、品種により大きく異なることが確認されました。作業時間は昨年度に比べ約38%減少しました。これは、切除する高さが低くなることにより、作業時間も短縮することが考えられました。

実証ほで得られた成果は、現地検討会で地域普及センターと共有することができ、各地域でJA営農指導員等への情報提供が行われています。



JA営農指導員への情報提供

4 次年度への取り組み

現在推進している抑制栽培は、生育期が台風シーズンと重なるため、倒伏軽減対策は重要な課題です。栽培する品種も耐倒伏性に優れた品種を導入することが一般的となっています。しかし、雄穂切除による倒伏軽減技術を導入することにより、品種選定の選択肢を増やすことも可能になります。

今後も異なる品種での実証や切除作業の省力化を検討するとともに、抑制栽培における品種特性の確認を行っていきます。